

観光シーズンにおける観光課題対策

取組趣旨

観光は幅広い産業と関連し、京都の経済や雇用、地域固有の文化の継承やまちづくりに大きな役割を果たしている。一方で、一部観光地の混雑などの観光課題が市民生活に影響を及ぼしてきた。

令和5年5月に新型コロナが5類に移行し、観光の本格的な回復の兆しが見える中、本市では、**市民、観光客、観光事業者・従事者等といった京都観光にかかわる全ての皆様の満足度を高め、市民生活と調和した「持続可能な観光」**の実現に向けた様々な取組を展開しており、とりわけ観光課題の抑制・未然防止に向けて、観光シーズンに集中的な取組を実施している。

本市の取組

国への要望

○「オーバーツーリズム対策に関する京都市からの緊急要望」の実施

・令和5年9月15日（金）、観光庁長官へ対し、持続可能な観光の実現に向け、本市をはじめ地域の実情を踏まえた対策を国において取りまとめていただくよう緊急要望を実施

・要望の主な内容は、「観光課題対策への強化支援」、「公共交通等における観光課題対策への強化支援」

○「オーバーツーリズムの未然防止・抑制に向けた対策パッケージ」の決定

・令和5年10月18日（水）、「オーバーツーリズムの未然防止・抑制に向けた対策パッケージ」が観光立国推進閣僚会議において決定された。

・同パッケージでは、「観光客の受け入れと住民の生活の質の確保を両立しつつ、持続可能な観光地域づくりを実現するためには、地域自身があるべき姿を描いて、地域の実情に応じた具体策を講じることが有効であり、国としてこうした取組に対し総合的な支援を行う。」とされている。

個別の混雑対策に係る取組

1. 京都駅一極集中の緩和
2. 市バスの混雑対策
3. タクシー乗り場の滞留対策
4. 観光地の混雑対策
5. 道路の混雑対策
6. 嵐山・東山における混雑対策

混雑対策に係る取組の広報

○令和5年9月11日（月）から11月16日（木）にかけて、「秋の観光シーズンにおける観光課題対策について」と題した報道発表を17弾にわたって実施

○令和6年1月26日（金）から「春の観光シーズンにおける観光課題対策について」と題した報道発表を11弾にわたって実施

○市民しんぶん令和5年11月1日号に混雑緩和や観光客へのマナー啓発等の取組を掲載

観光シーズンにおける観光課題対策（京都駅一極集中の緩和）

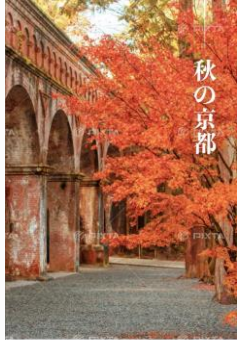
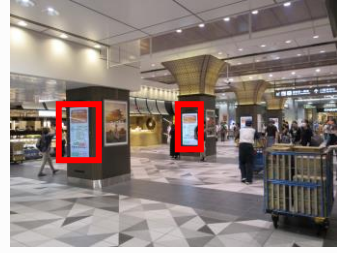
取組趣旨

京都駅への観光客等の一極集中による、京都駅と観光地を結ぶ一部バス路線の車内混雑緩和・利用環境向上を図るため、鉄道事業者等とも緊密に連携し、旅行者の「日常生活・出発地」、「車内・経路」、「目的地直前」という3つの段階で、JR山科駅、JR東福寺駅、地下鉄駅のサブゲートを活用した効率的なルートの利用を促す情報発信により、人流の分散化を図っている。

「日常生活・出発地」における情報発信

- ① JR西日本列車運行情報 公式X (旧Twitter) <JR西日本との連携>
- ② 東京駅デジタルサイネージ (多言語発信) <JR東海との連携>
- ③ 新幹線駅の改札上モニター等 (多言語発信)
- ④ 京都市観光協会 公式X (旧Twitter) <京都市観光協会との連携>
- ⑤ 京都市観光協会 ホームページ (京都観光Navi)

②



Kyoto is Autumn



③



観光シーズンにおける観光課題対策（京都駅一極集中の緩和）

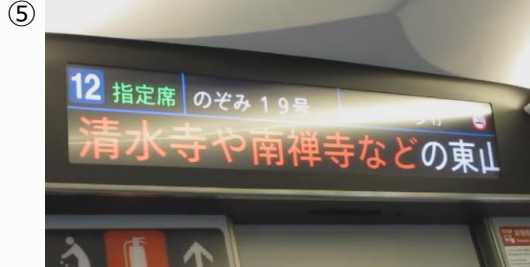
「車内・経路」での取組

- ① J R西日本WESTビジョン（多言語発信）
- ② 新快速電車（東海道本線）車内放送
- ③ 「関空特急はるか」車内放送
- ④ 移動生活ナビアプリ「WESTER」
- ⑤ 東海道新幹線車内電光文字広告 <JR東海との連携>

<JR西日本との連携>



- ⑥ 鉄道による京都観光を勧める中吊り広告「この秋は鉄道で京都を巡ろう！」の作成 <関西の鉄道事業者（10社局）との連携>



「目的地直前」での取組

- ① 京都駅構内でのデジタルサイネージ等（多言語発信）
- ② 京都駅橋上マルチビジョン8（多言語発信）
- ③ 京都駅構内放送
- ④ 新幹線京都駅コンコース内に設置したデジタルサイネージ等（京都駅前バス乗り場ライブカメラ映像、多言語発信） <JR東海との連携>
- ⑤ 京都総合観光案内所「京なび」でのデジタルサイネージ等（多言語発信） <京都市観光協会との連携>
- ⑥ 地下鉄京都駅等へのポスター掲示 <交通局との連携>
- ⑦ 期間限定案内所の開設 <国土交通省近畿運輸局・民間事業者との連携（実施主体は国土交通省近運輸局）>

<JR西日本との連携>



観光シーズンにおける観光課題対策（京都駅一極集中の緩和）

アンケート調査結果

1 実施方法

無作為抽出で観光客等に声かけのうえ、インタビュー形式で実施（対応言語：日・英・中）

2 実施場所

京都駅前広場（中央改札口前）及び京都駅新幹線コンコース

3 実施日

令和5年11月18日（土）、23日（木祝）、25日（土）、26日（日）

※ 新幹線コンコースは18日（土）、25日（土）のみ

4 回収数

358（インバウンドの割合：54.5%）

※ 駅前広場263、新幹線コンコース95

5 情報発信の効果

（1）【設問】情報発信は参考になったか？

なった : 68.5%

ならなかった : 31.1%

無回答 : 0.4%

（2）【設問】情報発信を見て、行動変容するか？

する : 40.1%

しない : 23.9%

元々鉄道利用 : 28.0%

無回答 : 8.0%

（3）情報発信に対する主な意見

- ・ もっとSNS（Youtube、Instagram、X等）を活用した方が良い。
- ・ 英語の情報がもっと欲しい。
- ・ 取組は良いと思う。続けて欲しい。 など

観光シーズンにおける観光課題対策（市バスの混雑対策）

取組趣旨

市バス事業においては、一部路線において“満員で乗れない”、“バス停留所が行列で乗りづらい”、“キャリーバッグ等の大型手荷物の持込みにより車内環境が悪化”といった課題が発生しているため、**市民・観光客の双方が共に便利で快適に御利用いただける市バスを目指し、混雑対策を推進**している。

市バス輸送力の再配分・増強

- ① 利用状況を踏まえた輸送力の再配分や増車（9両増車）
- ② 観光客向けの「観光特急バス」の新設をはじめ、観光系統のリニューアル
- ③ 観光利用で混雑が生じる系統での臨時バスの運行

令和6年6月実施予定

地下鉄を生かした移動経路の分散

- ① 市バスから地下鉄への無料振替
- ② バスのりばへの誘導案内サイン設置
- ③ バス1日券の廃止
- ④ 新幹線京都駅構内等における臨時販売等、「地下鉄・バス1日券」の販売強化
- ⑤ 関西国際空港での「地下鉄・バス1日券」多言語リーフレット配架
- ⑥ 関西国際空港リムジンバスへの「地下鉄・バス1日券」多言語リーフレット配架
- ⑦ 地下鉄の臨時増発

主要バス停留所・地下鉄駅における案内サービス等の取組

- ① 「京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”」等による案内活動の拡大
- ② 地下鉄駅改札口における案内活動の充実
- ③ 主要バス停留所・地下鉄駅における案内活動

市バスの定時運行に向けた取組

① 永観堂周辺での経路変更の実施 手ぶら観光の推進

- ① 臨時手荷物預かり所の開設
- ② 手ぶら観光情報サイト「HANDS FREE KYOTO」のリニューアルによる発信強化
- ③ 地下鉄・バス1日券の券面広告による手ぶら観光の啓発
- ④ デジタル広告を活用した啓発
- ⑤ 交通広告を活用した啓発



観光シーズンにおける観光課題対策（タクシー乗り場の滞留対策）

取組趣旨

人流が急速に回復する中、秋の観光シーズンには多くの観光客が入洛されることを踏まえ、市民生活と調和した持続可能な観光の実現を目指し、**京都駅タクシー乗り場（烏丸口、八条口）における利用者の滞留対策**を実施した。

タクシーへの乗り込みの円滑化や、タクシー供給の円滑化に関する取組に加え、乗合タクシー運行実証実験を実施した。

- タクシーへの乗り込みの円滑化（10月1日～）「烏丸口」「八条口」**
 タクシー乗り場、乗り込みや車両の誘導等に対応する人員（1～2名）を配置
 特に烏丸口においては、繁忙期に京都市交通協力会の「おもてなしコンシェルジュ」による外国人の行先確認を実施



- タクシー供給の円滑化**
 - ・**入場規制ルール緩和（10月14日～）「烏丸口」**
 烏丸口のりば（待機枠数：9列×6台（54台）において、
 ▲**見直し前**：待機列が残り1列（6台）となれば「4色規制※1」を解除し、すべての登録車両を待機場へ入場可。
 ▲**見直し後**：待機タクシーが途切れないよう、待機列が残り4列（24台）となった場合に「4色規制」を解除。
 ※1「4色規制」：登録台数約4,900台に対し、待機枠が54台しかないため、時期や時間帯によっては、塩小路通にタクシーが溢れる可能性があることから、登録車両をナンバーで4つのグループ（4色）に区分し入場をコントロールしている。

- ・**配車システム運用の見直し（令和5年5月～）「八条口」**
 八条口のりばへは鴨川西ランプ（第2待機場）を経由せずに直接、駅前待機場に入場する「直入モード」を基本とする運用に見直し



- タクシー乗り場に関する情報発信（観光MICE、観光協会と協力）**

- ・**車両待機状況、徒列状況の情報発信（臨時：秋シーズン）「烏丸口」**
 - ▲**徒列の状況をYouTube配信**（京都観光Naviサイト：11月17日～）
 - ▲**車両待機状況（静止画）の配信間隔の見直し**（3分間隔→1分間隔）を行い、よりリアルタイムな情報配信に改善（11月1日～）



（参考）
八条口においては、コロナ禍以前よりタクシーのりばの車両台数・徒列の状況を配信済

観光シーズンにおける観光課題対策（タクシー乗り場の滞留対策）

○乗合タクシー運行実証実験（プレ運行9月30日～、本格運行11月3日～）「烏丸口」

- ・ 京都府タクシー協会が京都駅タクシー乗り場の混雑解消と担い手不足対策を目的として実証実験を行った。
- ・ 本市からは、乗合許可の要件である実証実験の実施要請を近畿運輸局へ提出するとともに、必要経費の一部を支援した。

<実証実験概要>

【運行事業者】 都タクシー(株)等の9社

【実施時期】 プレ運行（11日間）：令和5年9月30日（土）～10月中の土日祝日

本格運行（14日間）：令和5年11月中の土日祝日（11月20日（月）の週は平日も実施）

【運行本数】 プレ運行：9時台から14時台まで10便（概ね30分おき）

本格運行：9時台から14時台まで20便（概ね15分おき）

【運行区間】 JR京都駅烏丸口タクシー乗り場から金閣寺（片道）

【運賃】 大人2,000円、小人1,000円



観光シーズンにおける観光課題対策（観光地の混雑対策）

取組趣旨

観光地の時期・時間・場所の3つの分散化は、一部観光地の混雑等の観光課題の解決のみならず、多様なエリアにおける地域活性化にもつながるものであることから、コロナ禍以前から進めてきた混雑対策を更に強化し、取組を推進している。

分散化に係る情報発信

①「京都 秋の観光のススメ」の発行



混雑状況・観光快適度の見える化と情報発信等

- ①「京都観光快適度マップ」混雑予測精度の向上
- ②ライブカメラ映像へのテロップ表示機能導入
- ③ライブカメラ映像配信地点の追加



観光シーズンにおける観光課題対策（道路の混雑対策）

取組趣旨

自動車分担率や市内における自動車交通量は着実に減少する一方で、依然として地域、季節等によっては車の集中が見られる。また、観光施設や土産物店舗、観光客向けの食事施設等において、観光バス駐停車等の問題や乗客のマナー問題が顕在化。

このため、**自動車流入抑制策や観光バスの路上滞留対策等**を進め、自動車交通の効率化と適正化を図り、誰もが出かけたくなる歩行者優先の魅力的なまちづくりを推進している。

パークアンドライドの利用促進

- ① 「X（旧Twitter）」や特設ホームページにおける情報発信
- ② 高速道路の広告媒体を活用した情報発信
- ③ パークアンドライド駐車場への誘導看板の設置
- ④ 無料の臨時パークアンドライド駐車場の開設
- ⑤ イオンモール京都五条と連携したパークアンドライドの利用促進



観光バス路上滞留対策

- ① 観光バス路上滞留解消に向けた啓発活動
- ② 観光バス向けの啓発看板の製作及び設置
- ③ 観光バス専用駐車場の再開
- ④ イオンモール京都五条と連携した観光バスの路上混雑対策



その他

- ① 清水坂観光駐車場、嵐山観光駐車場の自家用車への特別駐車料金の設定

観光シーズンにおける観光課題対策（嵐山・東山における混雑対策）

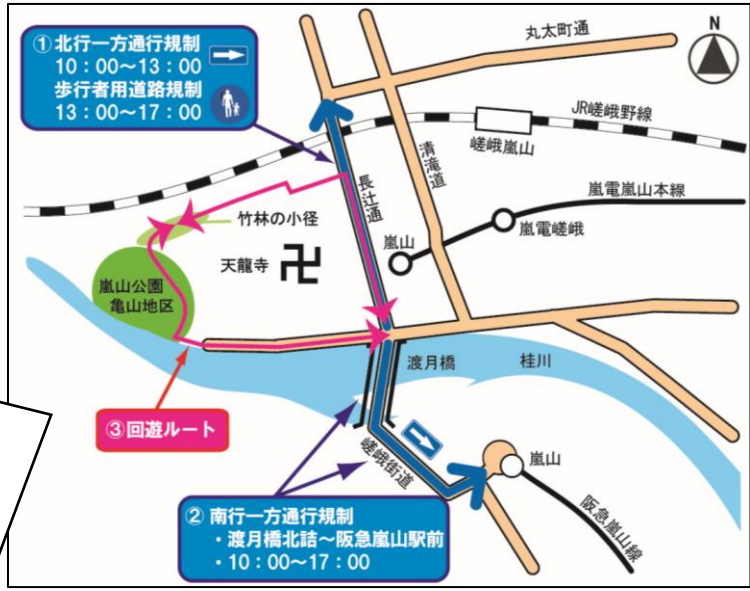
取組趣旨

嵐山地域及び東山地域における、交通の円滑化と安全快適な歩行空間の創出のため、11月下旬の土・日・祝日（対策日：11/18,19,23,25,26）における臨時交通規制をはじめとする交通対策を実施するほか、嵐山・長辻通の北行一方通行規制を11月中の平日にも拡大して実施した。

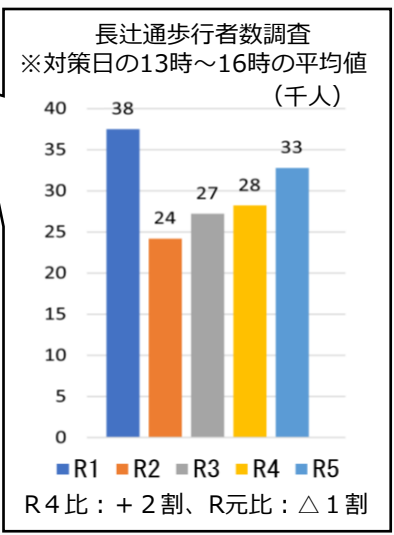
嵐山の取組

※②以外は新規またはコロナ前の取組の再開

- ①長辻通（三条通～丸太町通）
 - ・北行一方通行の平日拡大（11/1～30 10時～13時、車両（二輪・軽車両除く））
 - ・歩行者用道路（対策日 13時～17時、全車両（軽車両含む））
- ②嵯峨街道（渡月橋北詰～阪急嵐山駅前）
 - ・南行一方通行（対策日 10時～17時、車両（路線バス・軽車両除く））
- ③嵐山公園（亀山地区）を通る回遊ルートのご案内（対策日）
- ④渡月橋上の歩車分離（ダブルスチールフェンスの設置）
- ⑤住民アンケート（嵯峨学区）の実施（回答数：約1300件）



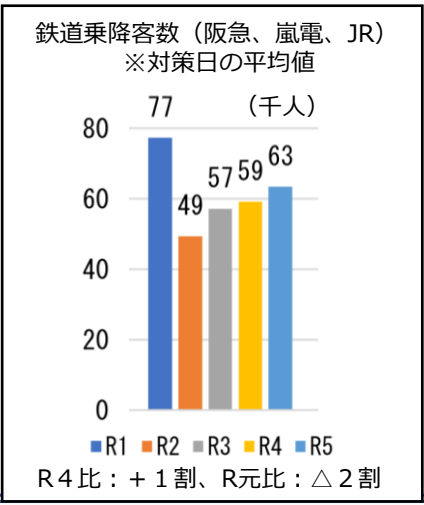
①長辻通（歩行者用道路）



③回遊ルートの案内（嵐山商店街作成看板）



渡月橋を北行者の3割程度が回遊ルートへ



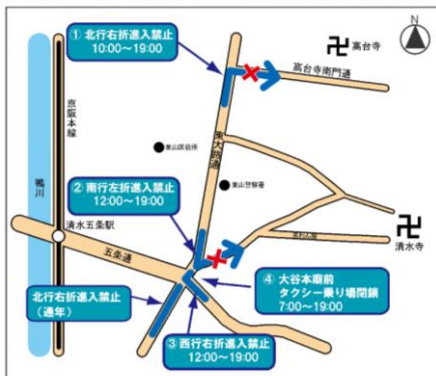
○渋滞長（JARTIC）
 期間中最長で1 km（清滝道北行（丸太町先頭））
 ※期間中全体で断続的な渋滞に留まった。



④渡月橋上の歩車分離

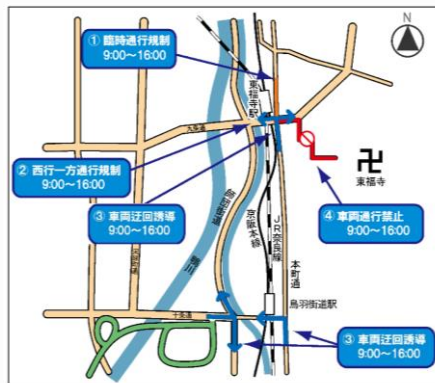
東山五条周辺の対策

- 東大路南行車両・国道1号西行車両の五条坂へ進入禁止
- 東大路北行車両の高台寺南門への右折禁止
- 大谷本廟前タクシー乗り場閉鎖



東福寺周辺の対策

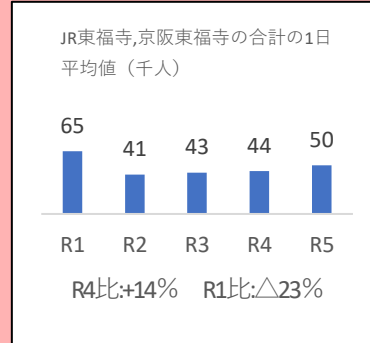
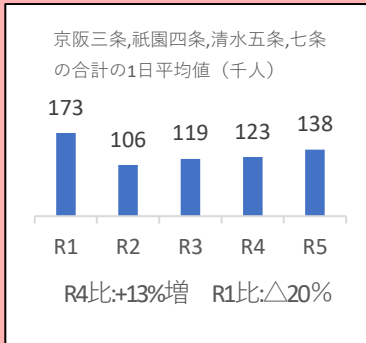
- 本町通の臨時通行規制
- 九条陸橋北側道西行一方通行
- 東福寺へのアクセス路の車両通行禁止
- 本町九条・十条、師団街道十条車両迂回誘導



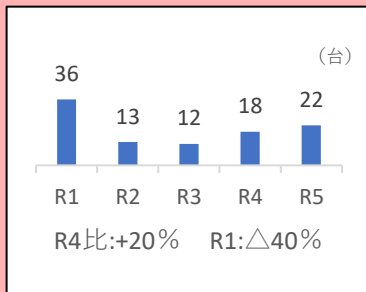
対策期間中の状況 (過年度比較)

※以下の数値は対策期間中の平均値を示す

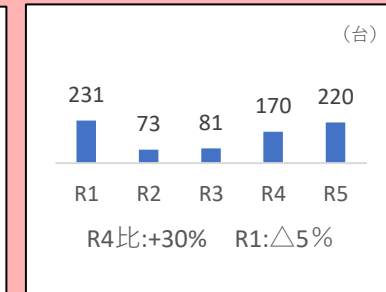
○ 鉄道利用者数



○臨時P&R利用台数



○清水坂観光駐車場観光バス利用台数



○渋滞長 (JARTIC)

対策期間中の午後、東大路通南行で600m程度の渋滞が発生

京都駅の交通結節機能強化

西日本旅客鉄道株式会社

京都市

連携

支援

京都駅新橋上駅舎・自由通路の整備

国

「オーバーツーリズムの未然防止・抑制に向けた対策パッケージ」（令和5年10月18日発表）に京都駅をはじめとする“鉄道駅の施設改善”を盛り込む

1 整備の背景

- 京都駅は、京都市民や通勤・通学客だけでなく、国内外からのビジネス客、観光客にとっての玄関口となっており、本市の「心臓部」とも言える最大の交通結節点。時期・時間帯によっては、駅構内や南北自由通路、路線バスの乗り場で混雑が発生している。
- 移動経路分散化等の混雑緩和対策に加えて、京都駅そのものの受入能力の拡大を図り、より多くの利用者が、より安全に、より便利に、より快適に使えるようにすることが不可欠な状況。
- この状況を踏まえたJR西日本との協議の結果、混雑している駅構内や南北自由通路の利用者動線を改善・強化する整備事業案をまとめ、令和5年12月27日に発表した。

京都駅の交通結節機能強化

2 整備概要

- 京都駅の南北自由通路の西側に、新橋上駅舎（新改札口・コンコース）、自由通路を一体的に整備
- 日本郵便株式会社及び京都駅ビル開発株式会社が計画している共同開発ビルへの接続についても協議中

3 整備効果

- 京都を代表する玄関口である、「京都駅」の交通結節機能の強化による市全体の持続的発展、活性化
- 人の流動を誘導・分散する新たな動線確保による駅周辺地域全体の活性化
- 駅ホーム、南北自由通路、駅前広場（バス乗り場等）等の混雑緩和

4 供用開始予定

令和13年度

京都駅の交通結節機能強化

5 設備概要

○ 新橋上駅舎（新改札口、コンコース（橋上駅舎））

- ・ 昇降設備

嵯峨野線ホーム

- エスカレーター上下各2基
- エレベーター1基

JR京都線各ホーム

- エスカレーター上下各1基
- エレベーター1基

琵琶湖・湖西線ホーム

- エスカレーター上下各1基
- エレベーター1基

- ・ 自動改札4通路
（うち幅広1通路）

○ 自由通路

- ・ 幅員：約6m

